



2010.04.12

「感情オノマトペ調査」結果報告

日常生活における[快]の感度は“女高男低”。

- [快]感情の「じーん」では、男性と女性に最大格差(21.2ポイント)。
- 男性の「じーん」は“ビジュアル(行動・姿)”系、女性の「じーん」は“バーバル(言葉)”系。

博報堂生活総合研究所では、生活者の日常の生活感情を20項目のオノマトペ(擬態語・擬音語の総称)の呈示によって表出させる調査を、2010年2月、全国の20～59歳の男女6,000名に実施しました。社会全体が成熟化する今、「物の豊かさ」(30.2%)よりも「心の豊かさ」(60.5%)を重視する声が増えています(2009年6月、内閣府「国民生活に関する世論調査」)。また、消費においても、生活者の“心を動かす”商品やサービス、施設、コンテンツなどが注目されています。このように価値観や生活環境が変わるなか、今の生活者の心を表わす感情はどうなっているか、調査結果を分析したところ、感情の抱き方の男女格差など、様々な発見がありましたので、ご報告いたします。

【調査からの発見】

① [快]より[不快]に多く占拠される日本人の心。[不快]のボリュームは男女同量。

- 直近3カ月(※1)、日常生活全般における“感情ボリューム(※2)”は、[不快](628.0pt)が[快](501.5pt)を上回る。
- [不快]のボリュームは、女性(648.2pt)が男性(607.9pt)を上回るが、その差は40.3ポイントにすぎない。

※1. 2010年2月下旬の調査時点での直近3カ月。調査時期の選定理由については、9ページの調査設計を参照のこと。

※2. 調査では[快][不快]につき、各10項目(計20項目)を呈示。各項目の感じた計(頻繁に感じた+たまに感じた)の総量を“感情ボリューム”とした。

② [快]で広がる男女格差。[快]のボリュームで、女性が男性を上回る。

- [快]のボリュームは、全体で501.5ポイント。女性(573.2pt)は、男性(430.8pt)を142.4ポイントも上回った。

③ [快]のタイプ別トップ5でも大きな男女差(いずれも12ポイント以上の差)。

[快]のタイプ別ランキング(感じた計・全体のスコアが高い順)

単位：全体・男性・女性(%)、差(pt)

	1位 ほっ	2位 ほのぼの	3位 やったー	4位 わくわく	5位 じーん
全体	61.9	56.8	54.5	53.3	50.9
男性	55.9	48.3	47.0	47.3	40.4
女性	68.1	65.3	62.1	59.5	61.6
差の絶対値 (男性-女性)	12.2	17.0	15.1	12.2	21.2

※参考として、「[不快]のタイプ別ランキング」を4ページに掲載。

④ 特に、「じーん」では、女性(61.6%)と男性(40.4%)に最大格差(21.2pt)。

男性は“ビジュアル”(人の行動・姿を見て)、女性は“バーバル”(人からの言葉)で「じーん」とする。

- 他にも、男女差が大きかったものに、「るんるん」、「ほのぼの」、「うきうき」、「やったー」があげられ、いずれも感じた計で女性が男性を15ポイント以上、上回る。
- 閉塞感ただよう社会・世の中であっても、[快]を上手に心に取り入れることに女性の元気の秘訣があるようだ。

本件に関する
お問合せ先

株式会社博報堂 博報堂生活総合研究所
株式会社博報堂 広報室

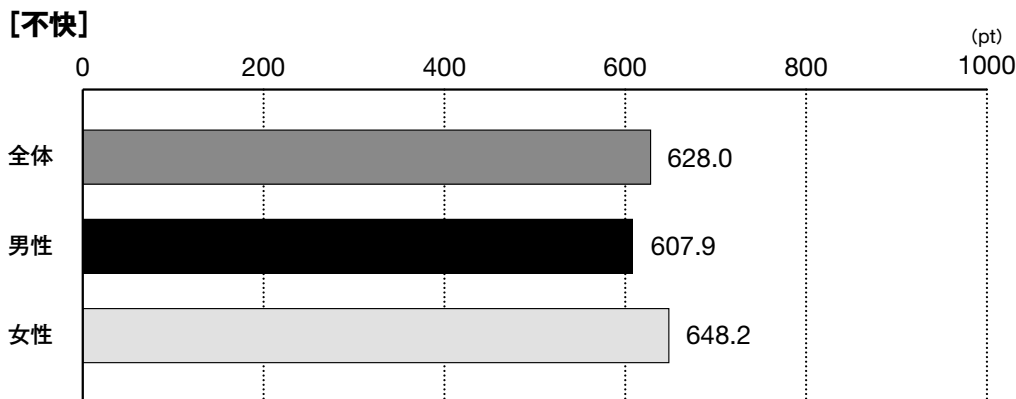
夏山 TEL: 03-6441-6450
西尾・大野 TEL: 03-6441-6161

① [快]より[不快]に多く占拠される日本人の心。 [不快]のボリュームは、男女同量。

- 直近3カ月(※1)、日常生活全般における“感情ボリューム(※2)”は、[不快] (628.0pt) が [快] (501.5pt) を上回る。
 - [不快] のボリュームは、女性 (648.2pt) が男性 (607.9pt) を上回るが、その差は40.3ポイントにすぎない。
- ※1. 2010年2月下旬の調査時点での直近3カ月。調査時期の選定理由については、9ページの調査設計を参照のこと。
- ※2. 調査では[快] [不快]につき、以下の各10項目(計20項目)を呈示。各項目の感じた計(頻繁に感じた+たまに感じた)の総量を“感情ボリューム”と名付けた。単位はポイント(pt)と表記。満点は1000ポイントとなる。
- [快] …… うきうき、じーん、しみじみ、すっきり、はればれ、ほっ、ほのぼの、やったー、るんるん、わくわく
- [不快] … あたふた、いらいら、うんざり、がーん、がくっ、くよくよ、ひやひや、むかつ、もやもや、やばい

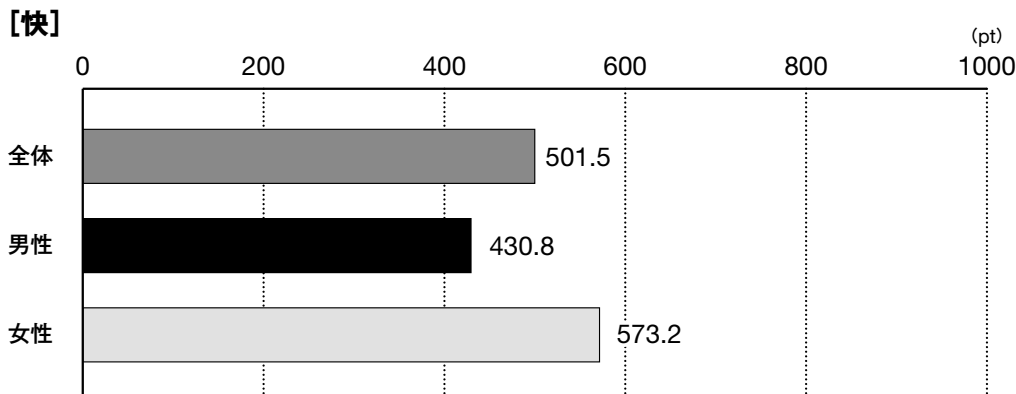
直近3カ月間、日常生活全般で抱いた“感情ボリューム” 単位：ポイント (pt)

	サンプル数	[不快]	[快]	差の絶対値 (不快-快)
全体	6000	628.0	501.5	126.5
男性	3028	607.9	430.8	177.1
女性	2972	648.2	573.2	75.0
差の絶対値 (男性-女性)	—	40.3	142.4	—



② [快]で広がる男女格差。[快]のボリュームで、女性が男性を上回る。

- [快] のボリュームは、全体ベースで501.5ポイント。
- 性別では、女性 (573.2pt) が男性 (430.8pt) を142.4ポイントも上回った。



③ [快]のタイプ別トップ5でも大きな男女差。 5項目のいずれも、12ポイント以上のスコア差。

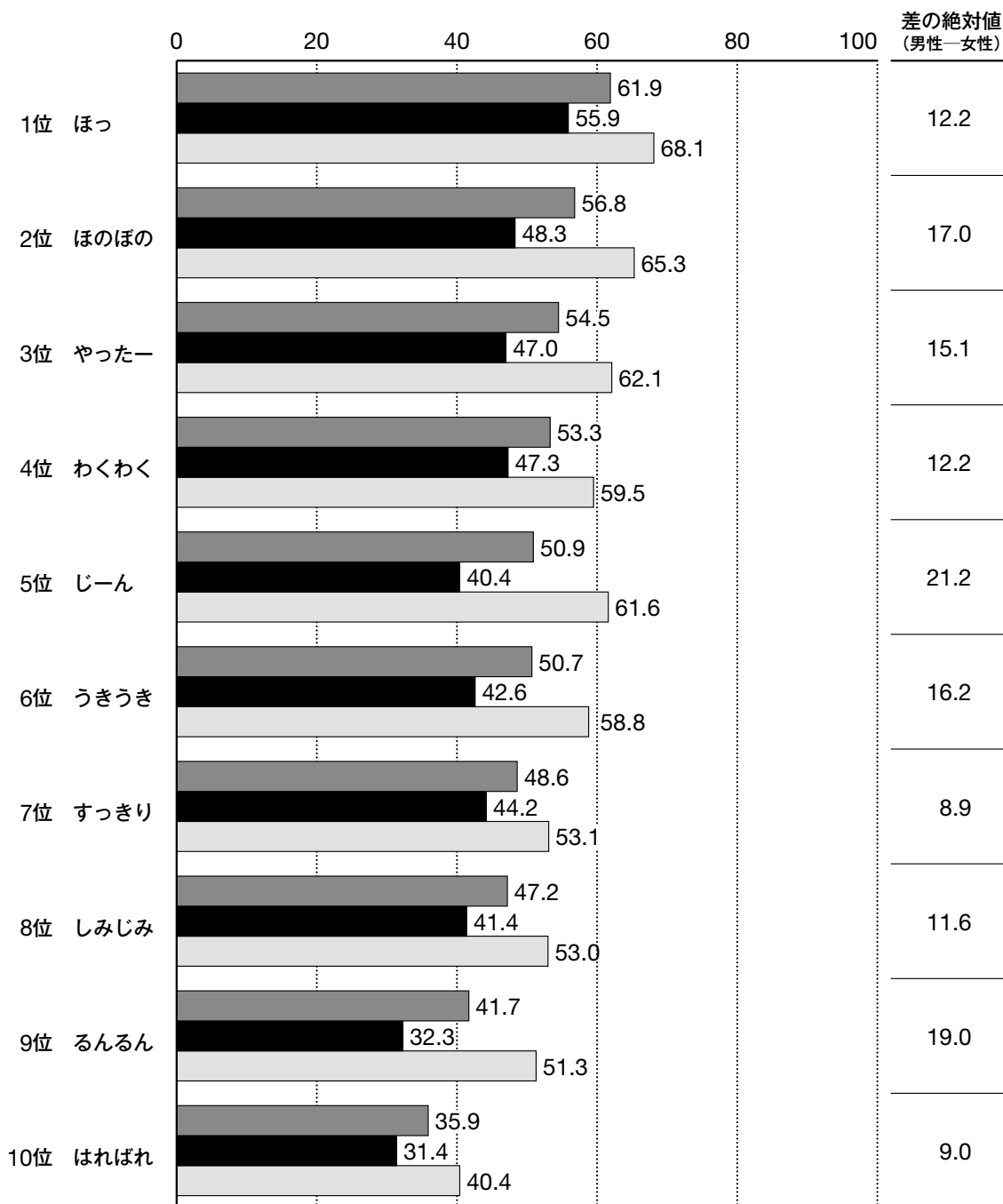
- [快]のタイプ別ランキング(感じた計)については、1位「ほっ」(全体：61.9%)、2位「ほのぼの」(全体：56.8%)で、女性のスコアが男性を大きく上回るものの、男女ともに順位は同じ。
- しかし、3位以下になると、タイプ別に感じた割合が男女で異なるため、順位にも違いが見受けられる。
- また、[快]で呈示した10項目の感情タイプのすべてで、男性より女性のスコアが高くなっている。
- トップ5までで見ると、いずれの項目においても12ポイント以上の男女差が見られる。

[快]のタイプ別ランキング(感じた計)

※全体のスコアが高い順

■ 全体 ■ 男性 □ 女性

単位：全体・男性・女性(%)、差(pt)



※感じた計は、「頻繁に感じた」「たまに感じた」の合計

参考 [不快] のタイプ別ランキング

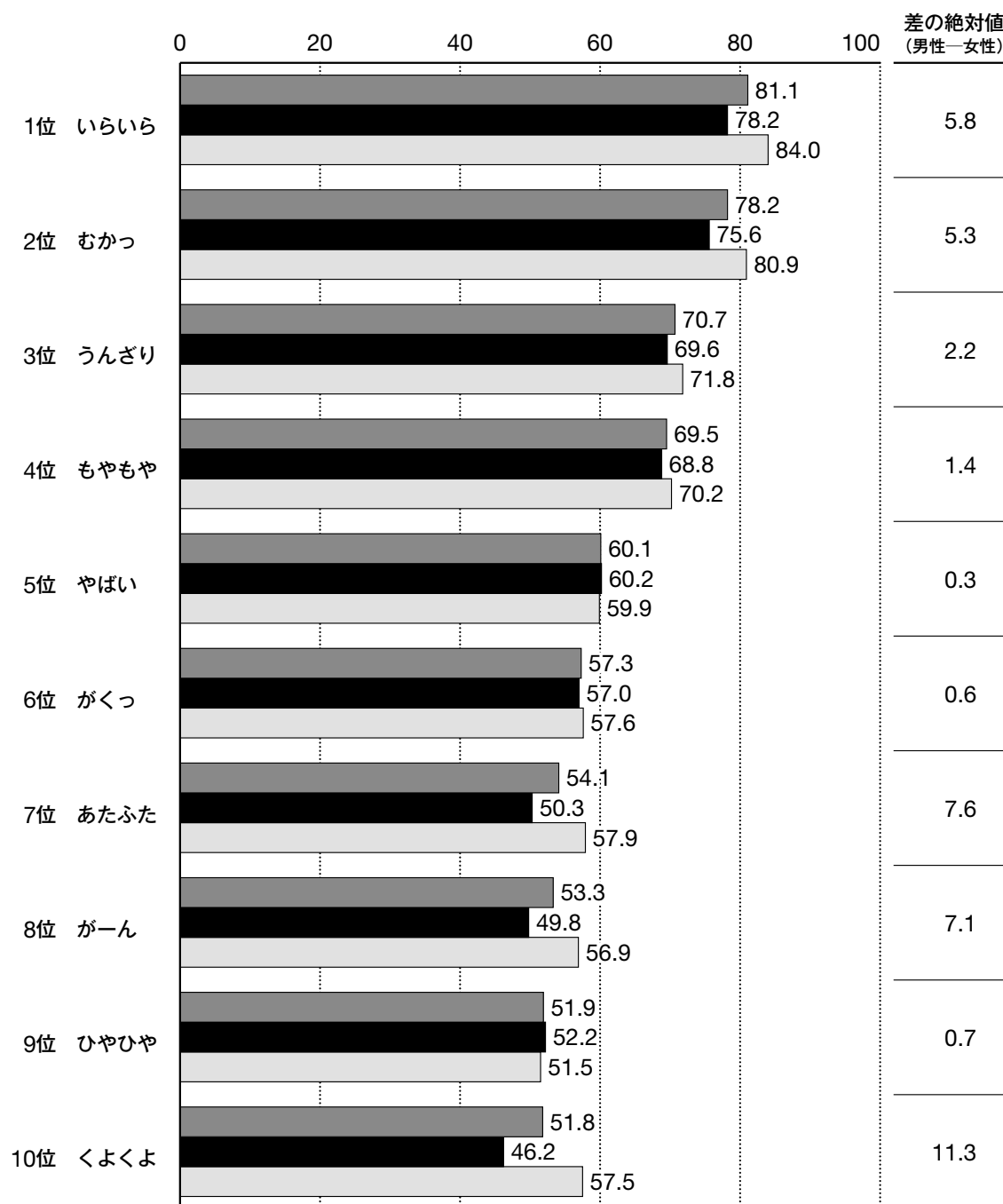
- [不快] のタイプ別ランキング (感じた計) を全体ベースで見ると、1位「いらいら」(81.1%)、2位「むかっ」(78.2%)、3位「うんざり」(70.7%)、4位「もやもや」(69.5%)、5位「やばい」(60.1%) と続く。
- トップ5については、男女とも順位はまったく同じで、[快] のタイプ別ランキングで見られたような、大きな男女のスコアの開きは見られない。
- 6位以下では男女の順位に食い違いが見られるものの、男女差は「くよくよ」を除く、すべての項目で一桁台に留まる。

[不快] のタイプ別ランキング (感じた計)

※全体のスコアが高い順

■ 全体 ■ 男性 □ 女性

単位：全体・男性・女性（%）、差（pt）

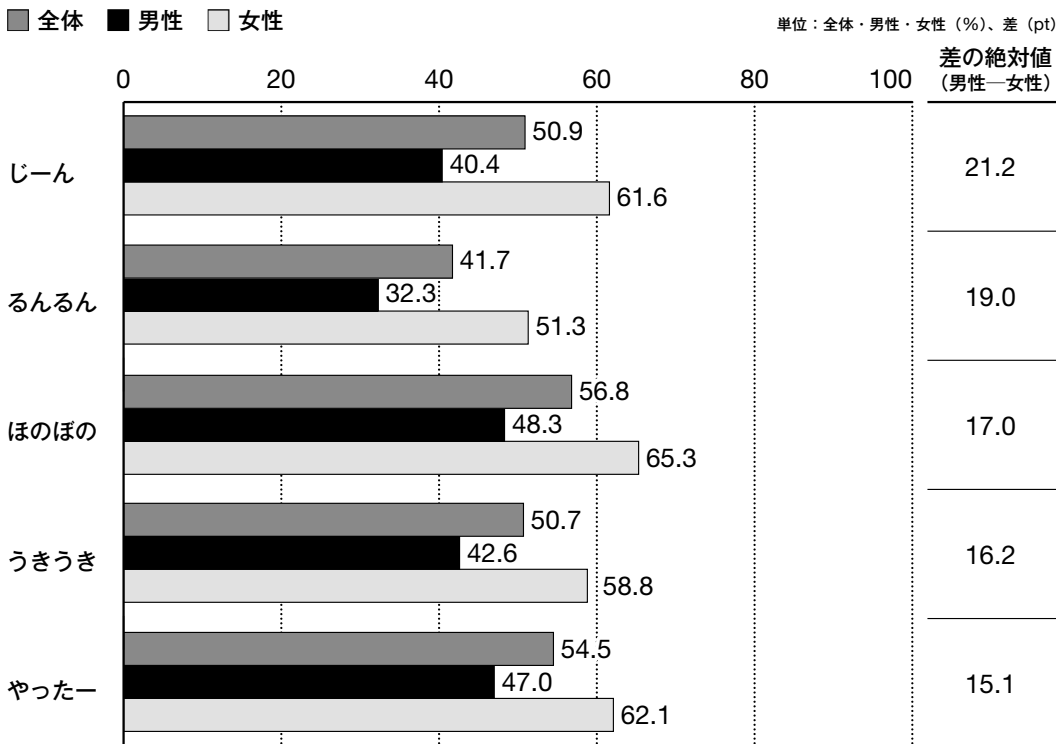


※感じた計は、「頻繁に感じた」「たまに感じた」の合計

④ [快]で呈示した半数の項目で、女性が男性を上回る。
「じーん」、「るんるん」、「ほのぼの」、「うきうき」、「やったー」は、
男女差が15ポイント以上。

- [快]のうち、男女差が15ポイント以上だったものは、「じーん」(21.2pt)、「るんるん」(19.0pt)、「ほのぼの」(17.0pt)、「うきうき」(16.2pt)、「やったー」(15.1pt)の5項目。
- いずれも、男性よりも女性で感じた割合が高くなっており、[快]で呈示した全10項目の半数を占める。
- 閉塞感ただよう社会・世の中であっても、心の中に[快]を上手に取り入れることに女性の元気の秘訣があるといえるだろう。

[快]のうち、感じた計で男女差15ポイント以上の項目(差が大きいもの順)



※感じた計は、「頻繁に感じた」「たまに感じた」の合計

男女差が 15 ポイント以上の項目の詳細

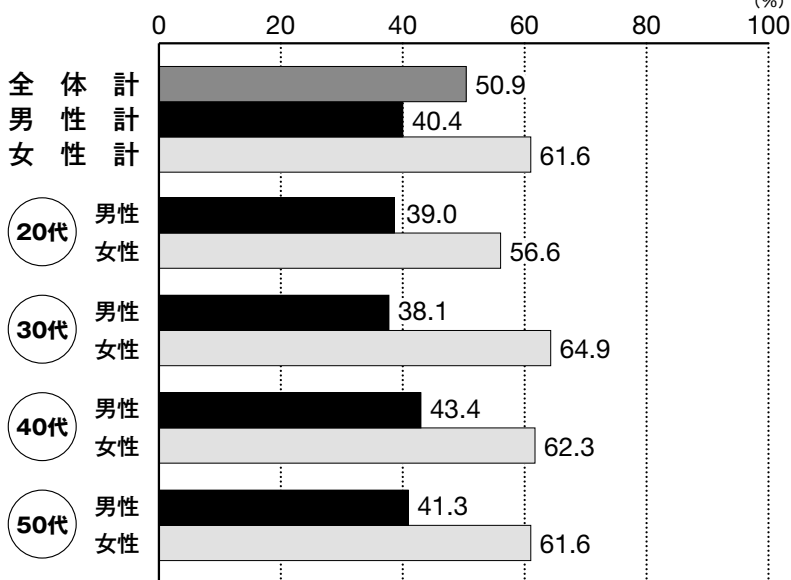
「じーん」

女性 (61.6%) と男性 (40.4%) に最大の格差 (21.2pt)。

「じーん」を感じた理由を見ると、男性は人が何かに取り組む行動や姿を見て…など、“ビジュアル”(Visual・視覚情報)系の意見が、女性は人から言葉をかけられて…など“バーバル”(Verbal・言語情報)系の意見が目立ち、男女の違いが浮き彫りになった。

- 女性 30～50代で感じた割合が6割超。
- 女性30代は64.9%で最も「じーん」を感じる一方、男性30代は38.1%で最下位。
- 同じ30代であるにも関わらず、男女の差は26.8ポイントにもなる。

感じた計(性年代別～)



感じた理由(自由回答・抜粋)

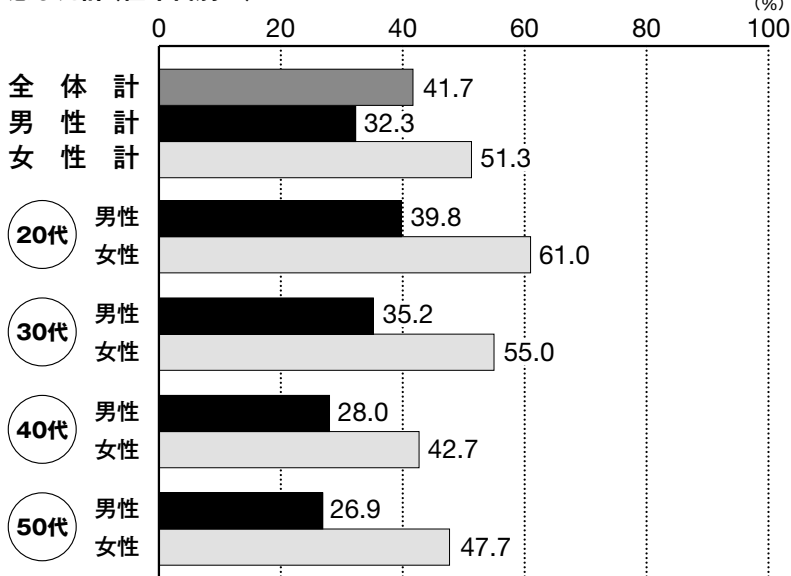
- 男性**
- オリンピックで選手のがんばっている姿を見たから (40代)
 - 娘の学芸会を見て (30代)
 - 妻が自分の代わりにすべきことをしてくれたのを見て (50代)
-
- 女性**
- オリンピックでの選手の母のコメントで (50代)
 - 親がやさしい言葉をくれたから (20代)
 - 転職が決まった彼に「必ず帰ってきて幸せにするから待ってほしい」と言われたので (30代)

「るるん」

男女とも「るるん」度合いは加齢で減少も、女性で50代になると「るるん」が復活。一方、男性50代で「るるん」を感じた人は、3割に満たない。

- 女性では、20代 (61.0%) をピークに「るるん」度合いは減少するが、40代 (42.7%) で底を打った後、50代で再び増加 (47.7%)。
- 「るるん」を感じた理由としては男女とも、“ちょっとした贅沢”や“新しい体験や珍しい出来事”に関するものが目立つ。
- 特に、女性50代では、「旅行」を理由にあげた意見が目立った。

感じた計(性年代別～)



感じた理由(自由回答・抜粋)

- 男性**
- 衝動買いしたから。開けるのがすごく楽しかった (20代)
 - 家が完成した時、住み始めた時 (30代)
 - 念願のスポーツカーを購入したから (50代)
-
- 女性**
- 旅行先で夫婦で初めてのシュノーケリングをして (50代)
 - 友人と旅に行き、観光や贅沢な食事など、楽しい時間を過ごせたので (50代)
 - 昨年秋に彼ができた。週末、彼の家での料理作りでるるんする (30代)

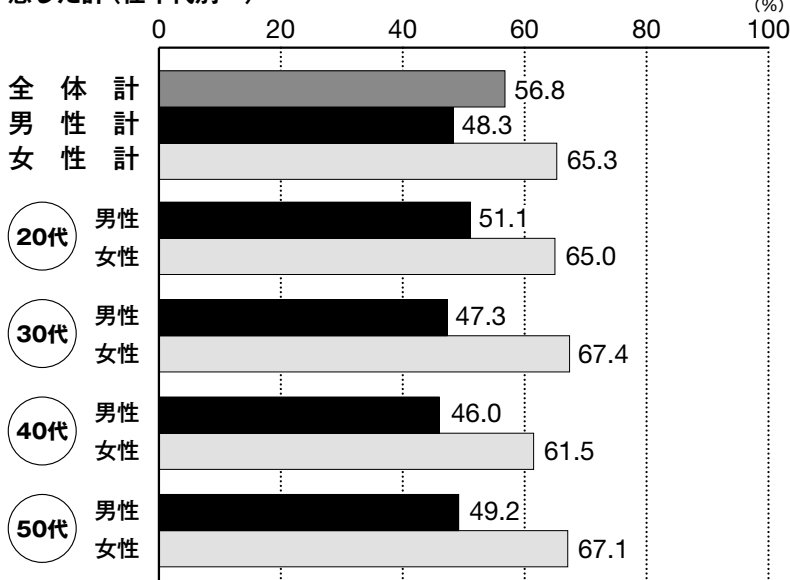
※感じた計は、「頻繁に感じた」「たまに感じた」の合計

「ほのぼの」

女性はすべての年代で6割超。各年代とも50%前後の男性に大差をつける。
「ほのぼの」を感じた理由として女性で多くあがるのは、「ペットと触れ合って…」。

- 女性では40代が最低の61.5%であるが、スコア自体は6割を超えて高い。
- 「ほのぼの」を感じた理由としては、男女ともに、家族や恋人、友人など“親しい人と一緒に過ごして”といった意見が目立つ。
- さらに、女性では、“ペットと触れ合う時間”に関する意見の多さが男性よりも顕著。

感じた計(性年代別～)



感じた理由(自由回答・抜粋)

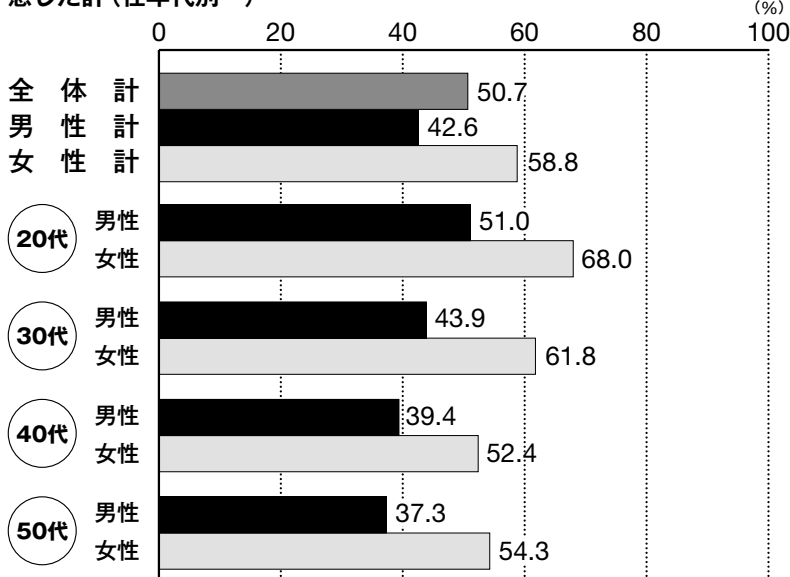
- 男性**
- 恋人と長く時間を過ごせるようになり、自分の心が安定したので(20代)
 - 家族でひとつのゲームに夢中になっている時(30代)
 - 家族との時間を意識的に増やした。一緒にいる時間がゆっくりに感じられ何か良い感じ(50代)
- 女性**
- 暖かい部屋で愛猫とゆったり過ごす時(40代)
 - 家のワン子がほとんど視力がないにもかかわらず、呼ぶと的確に腕の中に飛び込んで来てくれる。至福の時だ(50代)
 - 恋人と他愛もない会話で時間をゆったり過ごせた時(50代)

「うきうき」

「るるん」同様、男女とも年を重ねるにつれスコアは減少するが、女性は50代で微増に転ずる。「うきうき」の理由であがる
“家族”関連の意見を詳しく見ると、女性は“夫”を含むのに対し、男性は“妻”抜き。

- 「うきうき」を感じた理由では、「るるん」と同様、男女ともに家族や恋人、友人に関連する意見が目立つ。
- 特に、女性は男性に比べ、“家族”関連の意見が多い。
- 細かく見ると、女性では配偶者に関する意見があがるのに対し、男性では子供に関する意見が大部分を占める。

感じた計(性年代別～)



感じた理由(自由回答・抜粋)

- 男性**
- 久しぶりに高校のOB会があったから(20代)
 - 出勤中にいつもすれ違う素敵な女性に、今日もまた会えるかな、なんて思って(40代)
 - 1年ぶりに子供が帰ってきた(50代)
- 女性**
- 結婚記念日が近いから(20代)
 - ゲーム内だけど彼氏ができ、同じアバターで揃えたりしてうきうきした(30代)
 - 夫が休日にいろいろなところにドライブに連れて行ってくれるので(50代)

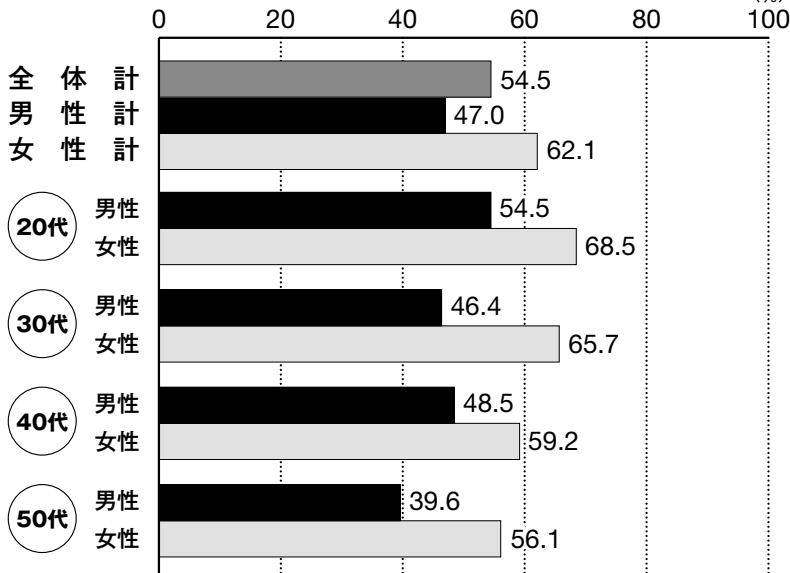
*感じた計は、「頻繁に感じた」「たまに感じた」の合計

「やったー」

男女とも20代がピーク。その後、「やったー」を感じる度合いは減少傾向。
女性では、他人事が自分にとっての「やったー」になるケースも目立つ。

- 女性 20代では7割弱（68.5%）のハイスコア。女性との差の大きさは否めないが、男性では20代が54.5%でトップ。
- 感じた理由として男女に共通するのは、“物事がうまく運んだ”、“思いがけず良いことが起こった”など、自分自身の利得や成長に関わること。
- さらに、女性では“自分の行動によって誰かが喜んでくれた”、“子供にとって良いことがあった”など、他人事すらも自分の喜びとして受け止める意見が多く見られた。

感じた計（性年代別～）



感じた理由（自由回答・抜粋）

- 男性**
- 懸賞に応募したら、ラーメンが当たり、名前がテレビに表示された（20代）
 - 結婚資金を貯めるため、節約生活を始めた。光熱費が下がっていくのを見ると達成感がある（20代）
 - スノーボードで普通にターンもできるなど、人並み程度以上に上達したので（30代）
-
- 女性**
- 彼氏にバレンタインチョコを渡したら、思っていた以上に喜んでくれたから（20代）
 - 子供の新たな成長を見れた！それからはヤッターな感情が続いている（20代）
 - 娘の大学入試の結果、志望するところに、合格した（50代）

※感じた計は、「頻繁に感じた」「たまに感じた」の合計

[調査設計]

■ **調査名称** 博報堂生活総合研究所「感情オノマトペ調査」

■ **調査目的** 生活者が日常生活でどんな気持ちを抱くのか、感情タイプ別に感じた頻度とその理由を聴取し、その結果を分析することで、感情のメカニズムに迫る。

～本報告で使用した質問～

Q. これまで3ヶ月間、日常生活全般において、あなたは次にあげる感情や気持ちをどの程度感じましたか。各項目毎に、あてはまるものをひとつずつお選びください（各項目につき、単一回答）。

《呈示項目》… 20項目（[快] [不快] につき、各10項目）

● 当研究所が実施した「感情語に関する調査（※1）」の結果を元に「感情オノマトペ（※2）」を選出。

※1 首都圏・阪神圏在住の博報堂調査パネル15～59歳の男女500名インターネット調査2008年3月。日常抱く割合、または抱きたい、解消したい割合、快・不快の度合いなどを聴取。男女ともに日常抱く割合や抱きたい、解消したい割合が高い項目を今回調査の呈示項目とした。

※2 オノマトペとは、擬態語・擬音語の総称のこと。

● 項目の呈示順については、順序効果による回答の偏りをなくすため、対象者別に入れ替えを行なった。

【快】

・うきうき ・ほっ
・じーん ・ほのぼの
・しみじみ ・やったー
・すっきり ・るるるん
・はればれ ・わくわく

【不快】

・あたふた ・くよくよ
・いらいら ・ひやひや
・うんざり ・むかつ
・がーん ・もやもや
・がくっ ・やばい

《選択肢》

1. 頻繁に感じた 2. たまに感じた 3. あまり感じなかった 4. まったく感じなかった

※本報告では、「頻繁に感じた」「たまに感じた」の合計を「感じた計」としている。

SQ. それでは、[快] [不快] で選んでいただいた感情や気持ちのうち、特に強く抱いた感情について、それを感じた時の状況や場面、出来事、行っていたことなどを教えてください（自由回答）。

■ **調査地域** 日本全国 47 都道府県

■ **調査手法** インターネット調査

■ **調査対象** 20歳から59歳までの男女6,000サンプル（有効回収数）
人口構成比を反映するよう、エリア別に性年齢10歳刻みで割付。

合計	男性					女性				
	小計	20代	30代	40代	50代	小計	20代	30代	40代	50代
6,000	3,028	659	843	754	772	2,972	631	823	742	776

■ **調査時期** 2010年2月19日（金）～22日（金）

これまで3カ月間で抱いた感情について質問した場合、感情の動きが大きくなると思われる時期を選定。（例：年末年始、帰省、旅行、節分、バレンタイン、オリンピックなど。）

■ **企画・分析** 博報堂生活総合研究所

■ **実施・集計** 株式会社 東京サーベイ・リサーチ
株式会社 マクロミル